

**東西南北**

**安心して年金制度を！**  
**海部津島革新懇**

海部津島革新懇は7月発行のニュースで「若い人も高齢者も安心できる年金制度」をテーマに共産党の杉山良介さんと年金者組合の鈴木俊和さんにインタビューをしました。杉山さんは「大企業と不富裕層優遇税制を是正すれば「消費税に頼らない道」は可能」。鈴木さんは「マクロ経済スライドを廃止しても年金財政の安定は可能。現役労働者の賃金の引き上げを行い、非正規労働者を正規に切り替えることと合わせて労働者の待遇改善されれば、社会保険制度への加入を促進することになる」と話されました。

また、海部津島革新懇ニュースでは杉山さんの学習シリーズ「杉山さん教えて(仮)」のコーナー



7/11 瑞穂区・原発撤退宣伝

をスタートさせます。

**11日宣伝**  
**年金削るな宣伝**  
**瑞穂区革新懇**

瑞穂区革新懇も取り組んでいる原発撤退11日宣伝は足掛け9年、94回になりました。7月3日には、こちらも定例化している「アベ政治を許さない」スタンディングにも9人が参加しました。

瑞穂区の年金者組合とも一緒に「年金削るな・消費税あげるな！」の宣伝を6月25日、新瑞穂で行いました。

(瑞穂区革新懇ニュース7月号より)

性は21年9月に終わるとは限りません。

**維新をどうみるのか**  
維新の会が躍進しましたが、みんなの党や都知事選で小池氏に流れた票などが、今回は維新に流れたのだと思います。名古屋では、河村市長の減税に入る票ですね。保守派が伸びたというより、非自民の保守票の受け皿になったとみるべきでしょう。

こんなに、グローバル化する経済の下で、政府が選択できる政策の幅は小さくなっています。だからこそ、政治に不満を持つ人が、左右両方から出てきます。エスタブリッシュメント(既存体制)に対する攻撃が、一定の支持を得るのもそのためです。アメリカのトランプ大統領が典型ですが、イギリスの首相に就任したジョンソン氏もそうです。日本では、河村市長や大阪維新の橋下徹氏は、既存の勢力と戦っているという構図を示したがりましたね。年金問題のように政治的に解決すべき問題がありながら、政治

的に解決できない状況の下で、難しい問題は棚に上げて、「悪者」を設定して叩くという手法が、日本でも欧米でも一定の効果を上げる時代になっているようです。

**改憲と対峙**  
参院選の際、安倍首相は、「改憲をきちんと議論する政党と、議論さえしない政党のどちらを選ぶのか」という問題設定をしましたが、これは間違っています。安倍首相も、自民党も、改憲問題をきちんと議論していません。議論すべきは、憲法九条改正をしたら具体的に何が変わるのかという点のはずですが、この問題がまったく議論されていません。安倍首相は現状を変えないといいますが、そもそも、自衛隊をめぐる「現状」が急速に変わってきているのです。

米軍機着岸可能な「空母」導入、米艦防護の激増、「海兵隊」新設、兵器の「爆買」、イスラエル、エジプト両軍の停戦監視活動を行う「多国籍軍・監視団」(MFO)への自衛官派遣などなど。トランプ大統領が安倍首相と一緒に「空母」

に改修予定の護衛艦「かが」乗船した際、「日米両国の軍隊は、世界中で一緒に訓練し、活動している」、「さまざまな地域の紛争や、離れた地域の紛争にも対応してくれるだろう」と述べたと報道されています。これらのことが進行していることと無関係に、九条の改憲の是非を議論できません。問われるべきは、憲法9条のテキストを変えるかどうかではなく、現在進行中の自衛隊の変容を認めるかどうかだと思います。「自衛隊は『専守防衛』だから大丈夫」と信じている人もいるようですが、自衛隊の装備・運用の実態は根本的に変化している。限りなく、「戦える軍隊」になっているのです。安倍首相の9条改憲は、この「現状」を承認するだけではなく、さらなる軍事大国化に対する歯止めを完全に取り除くものです。

票率を下げるのが、安倍政権の選挙対策なのです。年金問題を始めとして政治的に解決すべき問題が山積しているのに、選挙や政治がこんなに面白くないという異常事態は、選挙制度のせいではないかと疑ってみる必要があります。たとえば、自民党について、安倍首相の後の首相候補が誰も見当たりません。1990年代の政治改革の前までは、田中派のように金権腐敗の温床になった例もあるので、評価は簡単ではありませんが、自民党には派閥があり、各派閥の有力者が次期総裁候補として、党内野党のようにふるまうことがありました。政治改革により導入された小選挙区制と政党助成制度は、自民党の執行部の権力を強化させる一方、派閥の力を弱めました。だからこそ、現在の自民党には、安倍さんに対抗できる政治家がいないのです。

できるような制度設計をしていかないと、私たちの声は国政に届かなくなるのです。前述したとおり、有権者全体を母数としたら、安倍自民党への支持率が高いわけではありません。今回の参院選の教訓は、選挙制度の問題まで考えないと、日本の政治はますます劣化するということだと思います。

**多様性を認める社会**  
グローバルなレベルでの格差社会の進展は深刻です。アメリカのサンダース現象やイギリスのコービン現象は、この問題が両国において深刻であることの現れです。山本太郎氏が一人で100万票近く得票したのは、日本でも社会の亀裂が深刻な問題になってきていることの現れです。だから、山本氏を「実現可能性のない政策を訴えるポピュリスト」と評価するのは誤りだと思います。山本氏が比例区特定枠を使って、障がいをもつ候補者を当選させたことも注目すべきです。政治的に革新の立場に立つならば、女性・外国人・LGBT・障がい者など、多様な属性をもった人々の「個人の尊

厳」を尊重しつつ、積極的に包摂していく必要があります。これこそ、自民党の議員が苦手なところから、多様性を認める社会こそが、豊かな社会であるというメッセージを積極的に受け止めることが大切です。

共産党は野党共闘の中で大きな役割を發揮したと思います。ですので、共産党が、野党共闘の大切さを訴えたことは正しいと思いますが、政治にあまり関心のない人は、複数の野党が統一候補を出すこととだけ大変かわからないかもしれないので、野党はそれぞれ異なった政策をもっているが、安倍改憲を終えるため、最大限の譲歩をし合って、野党共闘を実現していることも、訴える必要があったのではないのでしょうか。

いずれにせよ、安倍改憲を阻止するためには、やることはたくさんあります。安倍改憲を阻止するためには、野党共闘のさらなる深化が必要ですが、それと同時に、共産党には、私たち一人一人の尊厳ある生活が可能となる社会のあり方を示し続けて欲しいと思います。

## 6. 18 選挙に行こう！ ～せやろが！式爆笑トーク～ 参加者感想アンケート

イベントに寄せられた100枚以上の感想文から一部を掲載いたします。

◎高校2年生です。とても楽しかったです。私の友達も「令和おじさん」をアップしているのを見ます。皆流行にのりたいたいと思うみたいなので、政治のことや差別の問題なども流行らせて、まずは意識が向くようになればいい。私も友達と話せたらと思うが、実際にはなかなか話せないの、自分もなにか行動したい。

◎ネットウヨのたたき方もエグイけど反安倍の人た

◎せやろがいおじさんチューブでみていて、実際に話をきける機会があったらいいなと思って。今日は動画だけでした。今日は動画だけでなく、トークもめっちゃたのしかった。たとえば上手い人、めっちゃかっこいい！憲法がむずかしいという話、せやろがいおじさんが憲法をすべて動画にしてチューブにあげてほしい。

◎私は今回のきかくの主旨とはおそらく対極にある考え方を持っています。しかし、せやろがいおじさんの伝え方やスタンスには賛同しました。

◎笑いの中にもするどい指摘や怒りがこもっている。本当に選挙に行かなくてはという気持ちになりました。

ちのたたき方もみてつらい。このかげきなやり取りが若い人たちの政治になればなっている気がする。もっと対話できるようなになるといいな。

◎とても楽しかった。また明日から会社がんばります。

◎人選がすごくいい。根底に思いやりのあるせやろがいおじさん(お笑い)と芥川賞作家の諏訪さん、めったにない組み合わせですごくいい企画。おっしゃっていたとおり政治の話をするのはとても大事。お二人の危機感がすごく伝わってきました。

◎笑いの中にもするどい指摘や怒りがこもっている。本当に選挙に行かなくてはという気持ちになりました。

◎政治の話をする自分に自身が敷居を上げてしまっていました。少し

◎楽しく学ばせて頂きました。子ども、同僚にも伝え、みんなで動画を見たいと思います。元気に楽しく活動을続けて。

◎「なんかおもしろそう」って思ってたから社会問題知れた」がいいというお話がありました。私、正にそれでした。せやろがいおじさん見たさに来て、あまり詳しくなかった社会の問題を少し知ることが出来ました。またちよつとずつでも知っていかなくてはいけないなと思いました。2時間弱があつという間だった。